



上海日本商工クラブ事業環境委員会 ミッション(泰州・揚州) 実施報告

上海日本商工クラブ事業環境委員会委員長
日本貿易振興機構(ジェトロ)上海事務所 所長 **三根 伸太郎**

江蘇省の健康医療関係を中心 とした視察ミッションを実施

7月14日(火)から15日(水)にかけて、上海日本商工クラブ事業環境委員会メンバーを中心に、江蘇省泰州市、揚州市視察ミッションを企画、実施しました(参加者は11企業・団体、15名)。両市とも日本企業との交流に対し非常に積極的であるとともに、中国国際貿易促進委員会江蘇省分会(江蘇省CCPIT)の黄政副会長の強い推薦があり、当日は王顕東常務副会長にも参加いただきました。

胡錦濤前国家主席の故郷でも知られる泰州市は508万人の人口を抱える地級市です。2010年に中国で唯一の医薬高新産業開発区(通称:中国医薬城(CMC))が設立されるなど、全国でも非常に注目されています。日本からは武田薬品工業、中外製薬が進出しています。

また、揚州市は建城2500年を迎え、奈良時代に仏教戒律や薬学などを日本に伝え、唐招提寺を創建した鑑真和尚の故郷であり、福田元総理が同地を訪問するなど日本との関係が良好です。産業面では化学、機械産業等の集積のもと、東レ、JFE、デンソーをはじめ日系企業進出が進むとともに、近年は日本健康

産業園を設立し、今回見学させていただいたユニ・チャームが進出しているほか、半導体・電子産業、新エネルギー産業などの産業の集積も進んでいます。

一日目:泰州市での視察・交流、その後揚州へ

まず泰州市を訪問し、CMC海外企業誘致推進部副部長の劉耘岐氏の案内のもと、CMCの展示場を見学しました。CMCは、前述のとおり医薬、医療機器、検査機器等に特化し、それらに対する許認可の優遇政策も併せ持つ、中国で唯一の開発区です。日本からの進出のほかにもアストラゼネカやネスレなども進出を果たしています。開発区内を6つの小エリアに区分けし、研究開発や製造、医療サービスなどをそれぞれ集積させています。

CMCを視察後、2014年12月に開所したばかりの中外製薬株式会社の現地法人である日健中外製薬有限公司を視察した後、泰州市主催の事業環境説明会があり、張余松副市長より、歓迎の挨拶をいただきました。その後、中国共産党泰州市委員会常務委員・泰州医薬高新区共産党工作委員会書記の陸春雲氏からは、「CMCは江蘇省政府のみならず科学技術部、衛生部、国家食



泰州市にある中国唯一の医薬高新産業開発区

品医薬品監督管理総局(CFDA)、国家漢方薬管理局の協力を得て設立したもの。CFDAの直属の分局として、江蘇省国家食品医薬品監督管理分局と同じ権限を有するなど、特別優遇政策を実行している。また、新薬申請にあたっては、我々としてCFDA経験者25名を有している。専門家を有するからこそ時間の節約が実現できている。現状、日本企業の投資はまだ少ないものの、揚州泰州空港から日本への直行便を予定しているとともに日航ホテルを建設しており、今後日本との距離がさらに縮まるだろう。ぜひ日本の医療機器、医薬業界の方にCMCに投資いただき、お互いの発展を目指していきたい。」との強い期待が述べられました。

事業環境説明会終了後泰州市を後にし、揚州市に向かいました。揚州市人民政府主催の夕食会前に行われた事業環境説明の冒頭で汪志堅副市長より歓迎の挨拶があり、その後、揚州市商務局の周春光局長

より、「揚州市は古くから日本との交流がある。揚州市は10ヵ国13都市と友好姉妹都市の関係にあるが、そのうち日本の都市とは唐津、厚木、奈良と結んでいる。観光資源も豊富で2015年初めに日本において観光関連の説明会を実施したところ。揚州市としては古代と現代を融合させた発展を目指していきたい。業種としては、自動車、機械(ロボット、オートメーション設備等)、IT・ソフトウェア、食品加工、観光の5分野に焦点をあて投資交流を進めたい。このミッションが今後の交流に大きく寄与することを願っている。」との期待が示されました。

二日目:日本銀行の講演、揚州市での企業視察

二日目の朝、日本銀行国際部企画役であり上海駐在中の後藤好美氏より、「最近の中国情勢」をテーマに講演いただきました。講演では、最近の株価の動向と政府の下支え策、今後へのインプリケーションをはじめ、景気回復の鍵となるインフラ建設の動向、不動産市場の底入れと緩やかな回復の見込み、当面のリスクとしての金融セクターの機能の動向など、最新のデータ、政策等の分析を基に中国経済情勢を読み解くための各種動向についての解説を頂きました。



泰州市主催投資環境説明会の様子

その後、ユニ・チャーム株式会社の現地生産子会社であり、2012年に設立した尤妮佳生活用品(江蘇)有限公司を訪問しました。訪問に際しては、石川正人董事・総経理より同社の中国展開の概要についてご説明いただいた後、工場見学をさせていただきました。ユニ・チャームは「NOLA & DOLA (Necessity of Life with Activities & Dreams of Life with Activities)」を企業理念とし、「赤ちゃんからお年寄りまで、それぞれが抱える束縛から解放させるとともに、生活の質の向上、生活者の夢を叶える商品作り」を目指しています。また、1984年に台湾に初めてとなる海外拠点を設立して以降現在に至るまで積極的な海外展開を図っており、吸収体事業では世界第3位、アジアでは第1位のシェアを誇っています。また、ベビーケア分野でも東南アジアを中心に圧倒的なシェアを誇っているものの、中国ではまだ市場開拓の余地があり、特に現在の販路は沿岸部に偏っていることから、内陸への足掛かりの意味も含めて揚州に生産拠点を設けたそうです(中国では上海、天津に次いで3カ所目)。今後は内陸部への販路開拓とともに、環境に配慮した商品作りを進めていきたい、とのことでした。同日午後からは、マキタ、日立、BOSCHなど世界の著名電動工具メーカーのOEM先であり、高郵市に所在するローカル企業金の飛達電動工具有限公司を視察しました。もともとは農機具のメーカーとして生産していたところ、1989年に電動工具メーカーに転換を図り今に至っている、江蘇省税関で唯一のAAランクを取得している優良企業です。



揚州市ではユニチャーム等を訪問

同社の特色として、OEMのみに特化、生産しており(設計は海外)、部品は地元提携企業から調達し、核となる部分については自社で製作。全て完成品で出荷しています。また、約2,300名の従業員のほかFANUCなど日本企業から導入した生産設備や自社開発した機材も組み入れながら生産しており、売り上げも順調に推移しているとのことでした(2014年は10億人民元)。なお、同社の生産している製品は専門性の高い分野であるため競争相手が少なく、優位性を保っているそうです。

同社訪問時には、高郵市人民政府 方桂林市長も我々を出迎えていただき、ミッションメンバーとの交流を図ることができました。

最後に

今回は二日間で江蘇省江北地区の二都市を回り、かつ開発区の説明にとどまらず企業訪問の視察を組み込んだことにより、充実したミッションを行うことができた実感しております。ご多忙にもかかわらずミッションにご参加いただいた皆様、視察を受け入れていただいた江蘇省の泰州、揚州両市政府および企業の皆様にも厚く御礼を申し上げます。今回のミッションで生まれた交流が関係したすべての皆様のお役に立つことを祈念しております。